



## 学校だより (13)

事務所 947-3111 ・ 授業日 291-1591 ◇<http://www.hjschl.org> ◇e-mail [info@hjschl.org](mailto:info@hjschl.org)

### 「協育」のすすめ

校長 福原輝幸

教育は、英語でEDUCATIONと言いますが、その語源はギリシャ語で「引き出す」という意味です。ですから、教育本来の意味は「子どもの持っている良さを引き出し、十分に伸ばすこと」となります。

ところが、教育が「狂育」「競育」「脅育」に変質しますと、悩ましい問題が生じます。

保護者が、一方的な考えのみで通塾やピアノまたスポーツを子どもに強要することがあればこれは「狂育」です。また、他の子や兄弟姉妹と比較して、ことさら競争を煽り立てる「競育」もよくありません。また「そんな成績では大学に行けないぞ」との「脅育」は感心しません。

ところが、教育が「協育」に変わると状況が一変します。子どもを中心に教師と保護者が力を合わせ、ともに学びあっていくのが「協育」です。

補習授業校は、子どもを囲む文化・教育環境は決して良いとはいえません。だからこそ、学校（教師）と家庭（保護者）の連携による学習つまり「協育」が重要となります。

しかし、残念なことに、ごくごく一部の保護者ですが、補習授業校に対する理解と協力の姿勢が希薄です。

家庭学習としての宿題をさせないで、平気で子どもを学校に来させている時があります。

教師は「保護者の協力がもっとあれば、もっともっと授業が進めることができるのに」と。

一方、保護者は「もう少し分りやすく教えてくれないかな」と担任に鋭い視線を投げかけています。

この「ずれ」を修正し、子どもの意欲をかきたてる「協育」の推進が、今、問われています。

### 今日はきのうの続きだけれど

今日はきのうの続（つづ）きだけれど  
朝ごとに目覚（めざ）めるように  
いちにちは 日々に新しい

きのうのぬくもりを肌（はだ）に  
今日のつめたい服（ふく）を着よう

ちょっとひざまづいて  
祈り（いのり）に似た気持ちで  
手早く服を着よう

窓（まど）を開（あ）けて  
きのうとは違（ちが）う  
新しい季節（きせつ）の顔（かお）に  
あいさつを送（おく）ろう

雨でもよし  
風でもよし  
曇（くも）りでもよし  
嵐（あらし）でもよし

わたしの今日は  
これからはじまる

(みつはし ちかこ)

(裏に続く)